

地域別懇談会 プログラム

第1回 地域別懇談会 8月22日(月) 19時～

1 地域の現況の説明
(1) 位置と地勢 (2) 人口と世帯ほか

2 地域活動の整理
地域で行われている活動を整理する

3 地域の課題
地域の課題を出す

※ 地域概要書の「3 市民意識調査」のデータを参考にする

4 課題に対する今後の取組方向（解決方策）
課題を解決するための具体的な方策を検討する

第2回 地域別懇談会 9月12日(月) 19時～

5 資源の発掘
自慢できる資源、次の世代に引き継いでいきたいモノ・コトを考える

6 資源の活用方法
資源を活かした取組や、今はないが今後つくっていききたいことなどを考える

7 将来ありたい地域の姿の原型の整理
2～6で考えた『ありたい地域の姿』の原型』を整理する
似ているものをグループにして、名前（キーワード）をつける

第3回 地域別懇談会 9月26日(月) 19時～

8 地域のありたい姿
7で整理したキーワードから、「地域のありたい姿（～なまち）」を班ごとに導き出す

9 地域のキャッチフレーズ
各班でまとめた「地域のありたい姿」（複数）をもとに、班ごとに「地域のキャッチフレーズ」をまとめる。

以下、次年度以降

- 第3回懇談会でまとめた「地域のキャッチフレーズ」（3班分）を1つのキャッチフレーズへ集約する。
- 地域へ地域別構想素案を示し、内容について地域と合意形成を図る。

《地域別構想のイメージ（骨子案）》

① 地域のキャッチフレーズ
(例) 伝統が息づき、交流と活力のある●●地区

② 地域の現況
(1) 位置と地勢
(2) 人口と世帯

③ 地域力
地域の活動や地域の資源など

④ 地域の困ったこと（課題）と地域ができること（解決方策）

【イメージ】

●●地区の方向性 （弱みの克服と強みの伸長を記述）

困っています。解決するために、 をしていきます。

に取り組んでいます。今後更に、 をしていきます。

⋮

⋮

⑤ 地域のありたい姿

将来ありたい
地域の姿

～なまち

～なまち

～なまち

～なまち

懇談会のルール

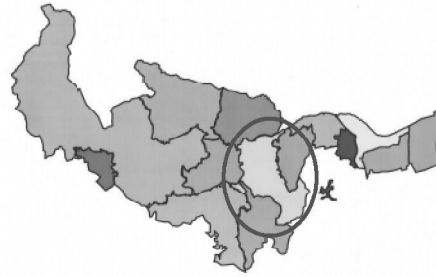
- ① 人の話を聞くときは ふむふむと
- ② ナンバーワンより オンリーワン
- ③ 紙に書くときは ペンを使って大きな文字で

地域概要書：多田小地域

1 地域の基本的な状況

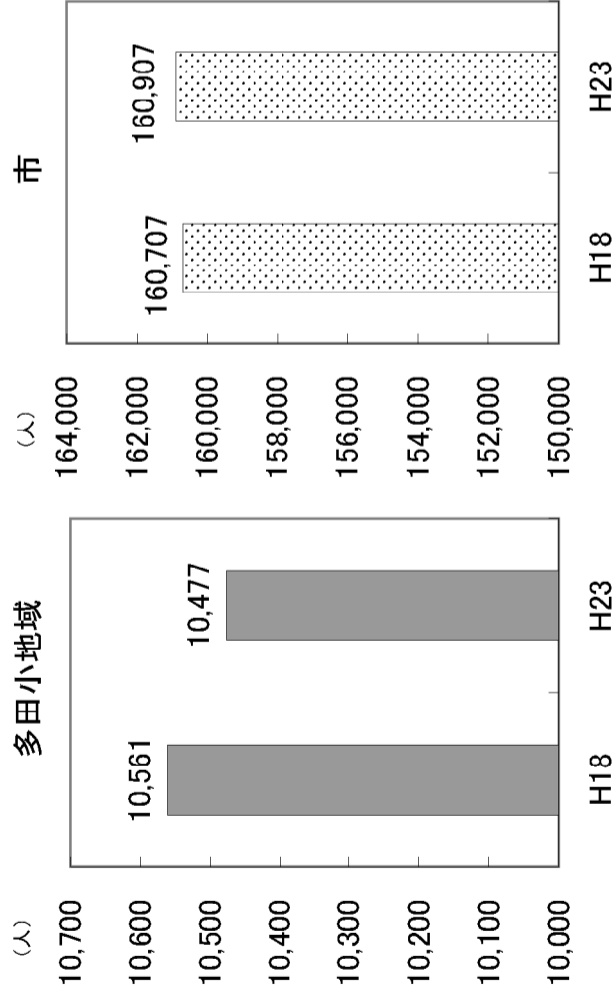
位置

市の中南部に位置しています。



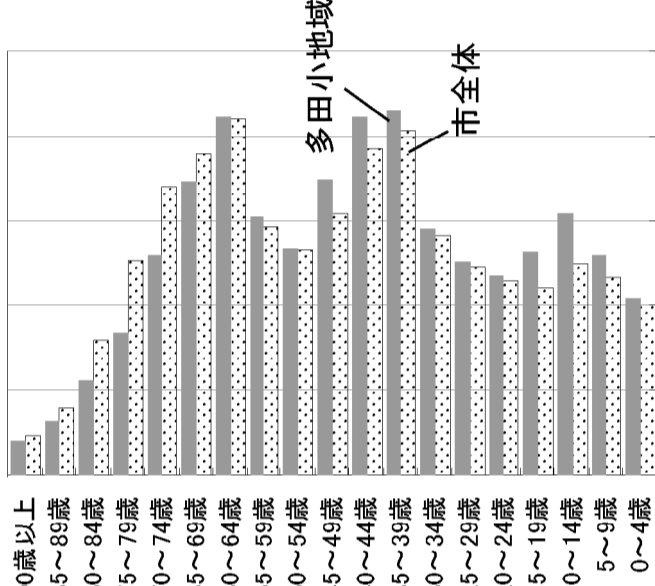
人口の変化

5年間で、0.8%減少しました。一方で市全体では、0.1%増加しています。



年齢別人口構成

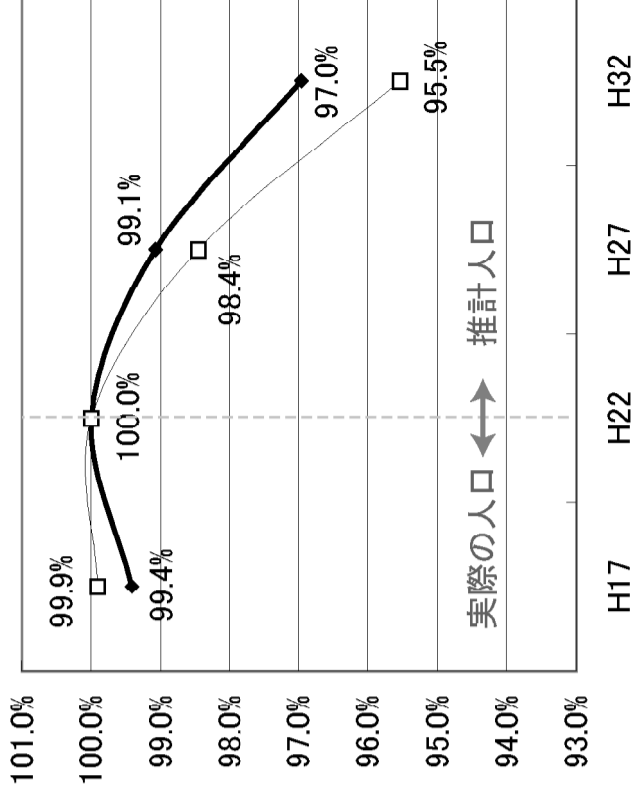
人口を年齢別にみると、35歳～39歳が最も多く、続いて40～44歳が多くなっています



※人口全体を分母とする割合で表示 (H23住民基本台帳)

地域の将来人口推計

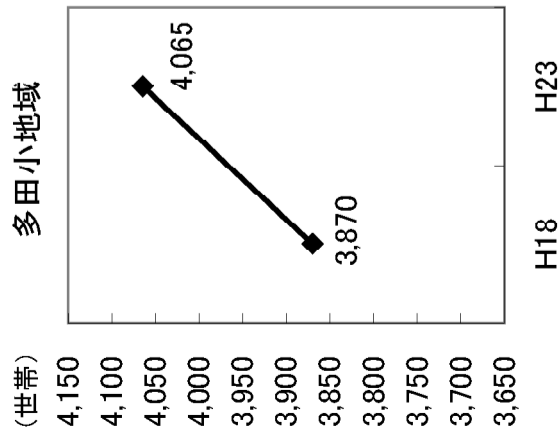
地域の将来人口は、10年後には3%程度(約300人)減少する可能性があります(推計)。



※社会移動趨勢型 (住民基本台帳ベース)

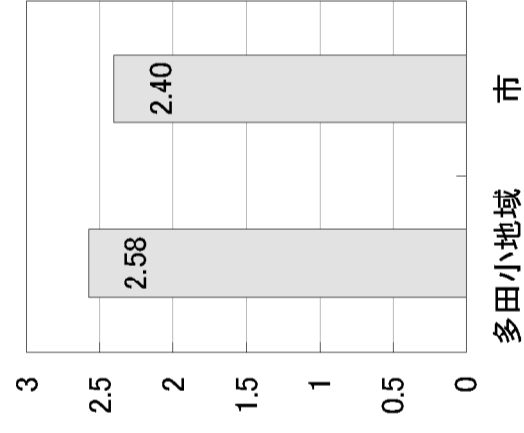
世帯数の変化

世帯数は、5年間で5%増加しています。市全体では約6%増加しました。



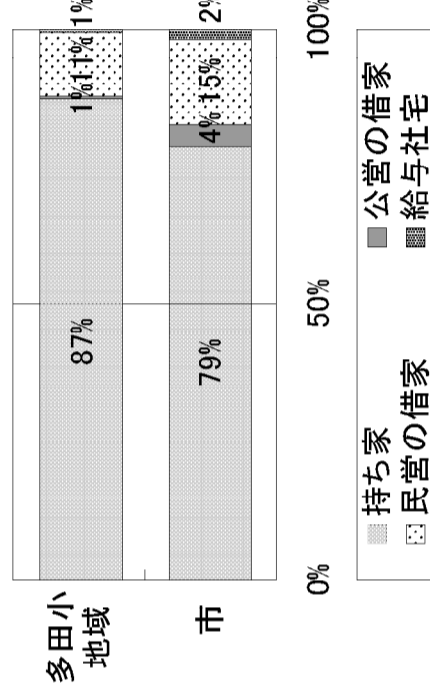
平均世帯人員

世帯あたりの人口は、2.58人となっています。



住宅の所有

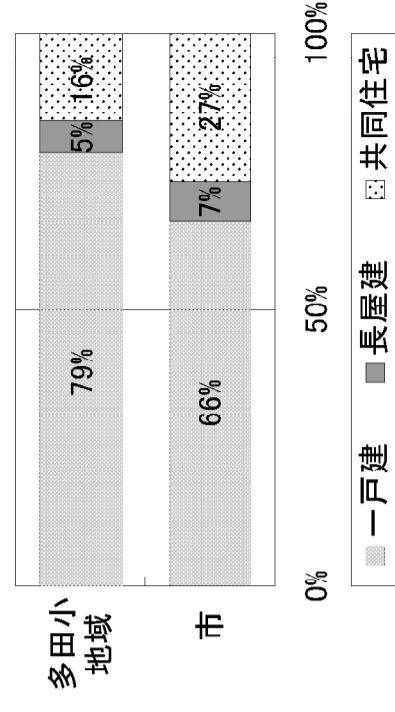
市平均よりも、持ち家の割合が大きくなっています。



(H23住民基本台帳) (H17国勢調査)

住宅の建て方

市平均よりも、一戸建ての割合が大きくなくなっています。



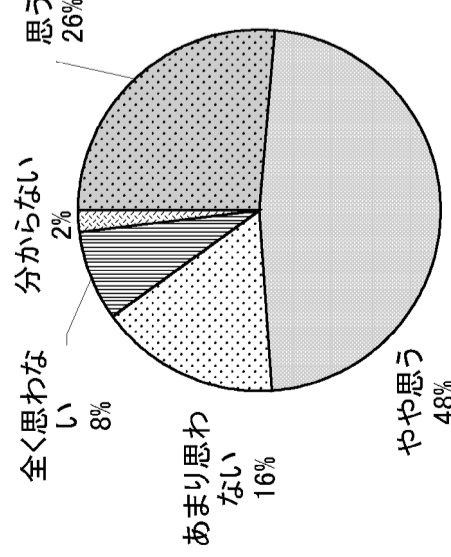
(H17国勢調査)

地域愛着

「愛着を持っていると思う」「やや愛着を持っていると思う」と答えた地域住民は、約7.5割となっています。
 地域に住む中学生は、川西市が「好き」「まあまあ好き」の回答は、約9割となりました。

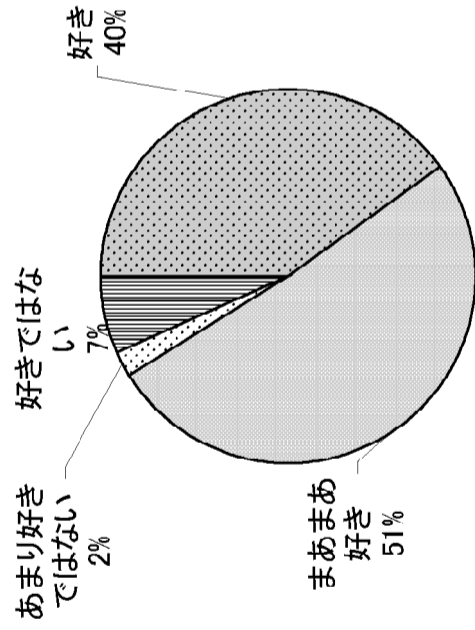
地域住民(N=103)

自分の住んでいる地域に愛着を持っていると思いますか。



地域の中学生(N=45)

あなたは、川西市が好きですか。

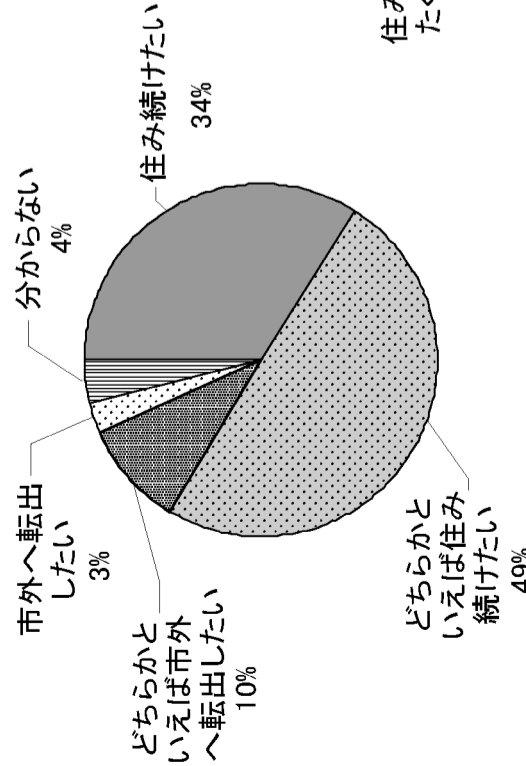


定住意向

「住み続けたい」「どちらかといえば住み続けたい」と答えた地域住民は、約8割となっています。
 一方で、中学生では、約4割となりました。

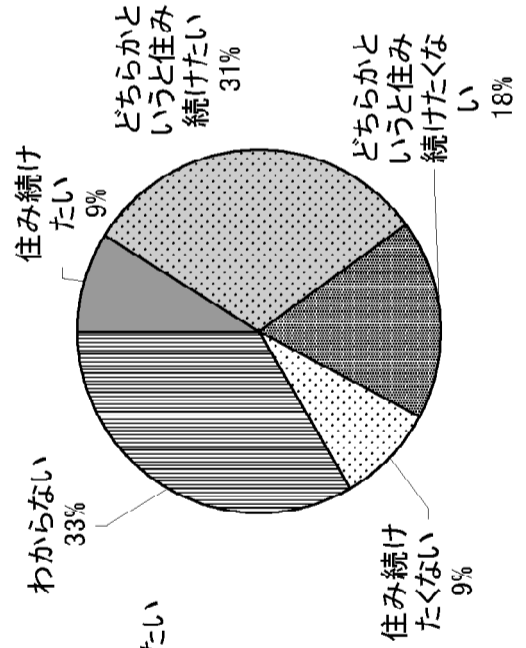
地域住民(N=103)

これからも川西市に住み続けたいと思いますか。



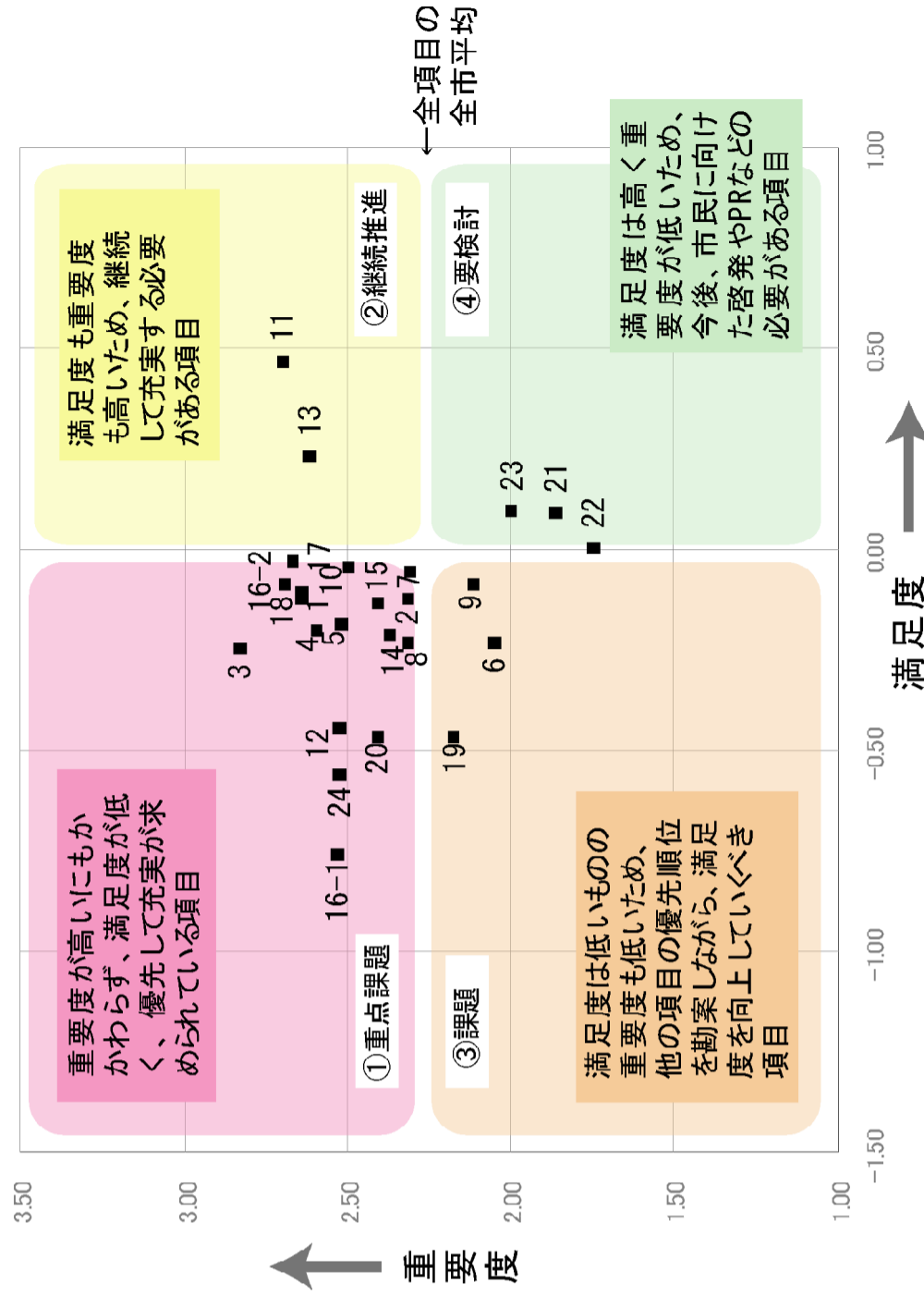
地域の中学生(N=45)

大人になっても川西市に住み続けたいですか。



暮らしの中の課題と重要度

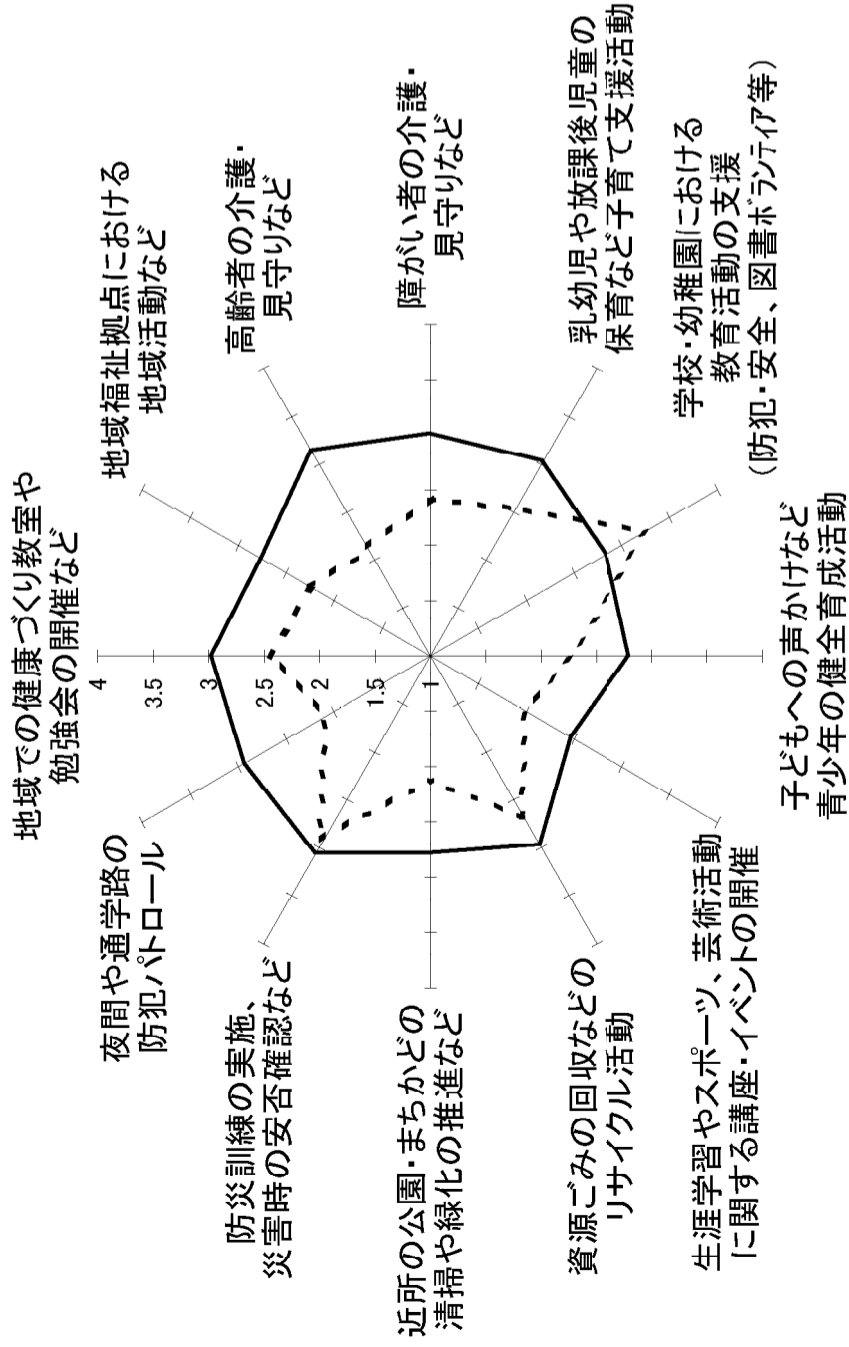
重要な課題として幅広い項目が挙げられており、中でも重要度が高いものとして「高齢者の支援」や「公共交通の利便性向上」「生活安全の推進」などが挙げられています。



1.健康づくりの支援	11.省資源・リサイクル
2.地域福祉の推進	13.上水道の安定供給
3.高齢者の支援	
4.障がい者の支援	
5.子育て支援	
7.学校教育環境の整備	
8.青少年の育成	
10.環境の保全	
12.公園・みどりの整備	
14.都市計画の推進	
15.市街地整備	
16-1.交通施設の整備	
16-2.公共交通の利便性向上	
17.防災力の向上	
18.生活安全の推進	
20.労働環境の向上	
24.効率的な行政の運営	
③課題	④要検討
6.低所得者福祉	21.観光の振興
9.生涯学習・文化の振興	22.共感・共生のまちづくり
19.産業の振興	23.参画と協働のまちづくりの推進

取組みの重要度と、市民の意欲

重要度が特に高いのは、「高齢者の介護・見守り」や「防災訓練の実施、災害時の安否確認など」「乳幼児や放課後児童の保育など子育て支援活動」です。地域で担うべきと考えられているのは、「学校・幼稚園における教育活動の支援」「防災訓練の実施、災害時の安否確認など」「資源ごみの回収などのリサイクル活動」となっています。

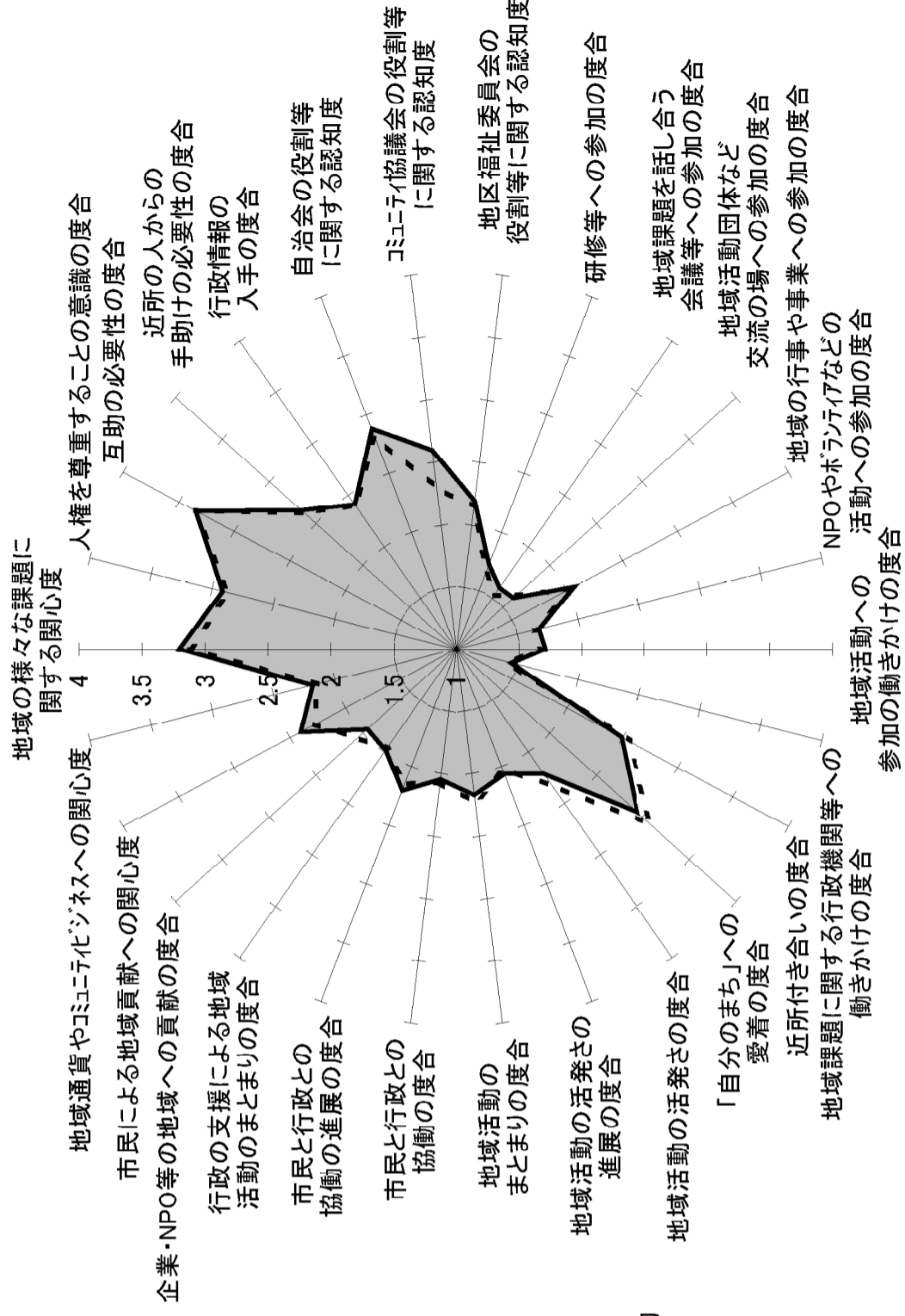


取組みの重要度 (大いの方が重要度が高い) 地域が担うべき取組み (小さい方が「市が担うべき」)

※値は「わからない」および無回答を除く、小学校区別の平均値

地域の力

数値が高いのは、「互助の必要性の度合い」「地域の様々な課題に関する関心度」「自分のまちへの愛着の度合い」です。



地域の力

市

※値は「わからない」および無回答を除く、小学校区別の平均値